東邦学園広報

Toho Campus
東邦キャンパス

愛知東邦大学
AICHI TOHO UNIVERSITY

vol.129
平成30年(2018年)7月 発行

発行　学校法人 東邦学園 〒465-8515名古屋市名東区平和が丘三丁目11番地 TEL 052（782）1241　FAX 052（781）0931
HP 東邦学園　愛知東邦大学　東邦高等学校　検索

特集

100周年に向けて

1．95周年迎えた東邦学園
2．ブランディングインタビュー「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」

TOHO MARCHING BAND（TMB）が始動
愛知東邦大学体育館で開催されたTMB後援会設立総会ミニコンサート（6月16日）

目次

特集1

95周年迎えた東邦学園
東邦会総会に350人が参加

学校法人東邦学園の歴史は1923（大正12）年４月の東邦商業学校開校から始まり、2018年４月で創立95周年を迎えました。同窓会組織である「東邦会」は５月に記念総会を開催し、世代を超えて参加した卒業生350人が95周年を祝いました。法人事務局でも新年度から「新たな百年」事務局がスタートし、いよいよカウントダウンを迎える100周年事業に向けた動きが本格化しようとしています。

世代を超えて母校の95周年を祝った記念総会（ホテル名古屋ガーデンパレスで）

東邦会は５月19日、名古屋市中区のホテル名古屋ガーデンパレスで、東邦学園創立95周年を祝う記念総会を開催しました。愛知東邦大学吹奏楽団のオープニング演奏に続いて開かれた総会では、最初に３日前の５月16日に93歳で逝去した稲垣鍵一・東邦会元会長（1941年東邦商業卒）の訃報が伝えられ、全員で物故者への黙祷が行われました。

あいさつに立った高山仁惣（ひとふさ）会長（1972年東邦高校卒）も、冒頭で稲垣さんの突然の逝去について語り、戦争の時代、焼け野原の時代を体験した稲垣さんが東邦会の活動に尽力した功績を偲びました。

高山会長に続いて榊直樹理事長、佐々木泰裕校長もあいさつし創立95周年を迎えた喜びを語りました。

参加者を前にあいさつする高山会長

高山会長は100周年事業への取り組み案について、教育の質向上支援事業、目標額１億円の教育支援基金募集事業、参加者1000人を目標とした100周年記念総会の開催などの事業について説明し拍手で了承されました。

記念講演ではタレントのゴルゴ松本さんが「命の授業」をトーク。「95年のきずな」をテーマにした懇親会では、愛知東邦大学吹奏楽団の伴奏で校歌を斉唱。高校硬式野球部OB会の大橋伸治会長（1975年東邦高校卒）の発声で乾杯が行われました。各テーブルでは同世代、世代を超えた同窓生たちが懇親を深めました。

学園あげての100周年事業推進を

東邦会会長　高山　仁惣

95周年記念総会は世代を超えた約350人が参加し盛況でした。総会は５年ごとに開かれますがこれほどの参加者が集まったことは最近ではなかったと思います。東邦会では数年前から次代に対応できる組織変革に取り組み、若手卒業生の意見が反映でき、実効性のある委員会組織に生まれ変わりました。

今回の総会では企画委員会が１年をかけて立案し、役員会の承認を得て400人の参加目標を掲げてきました。目標には届かなかったものの、中身の濃い総会、懇親会になりました。幹事の皆さんに頑張っていただいた成果だと思っています。ただ、誰でもが参加できる総会であることを考えれば、４万5000人の会員中の350人ですからまだまだ少ない人数です。

東邦会の2018年４月現在の会員数は約４万5000人ですが、これは各年度の卒業生数の足し算であり、物故者を差し引いた実数は当然少なくなります。総会参加を呼びかける案内状を送ったのは約２万8000人でした。商業学校最後の卒業生である21回生の方でも80歳代後半です。時代とともに上下の関係が希薄になる中だからこそ、同窓会での交流は人間関係や人脈づくりで果たす役割が大きいと思います。

東邦学園の法人組織として「新たな百年」事務局が発足し100周年に向けて動き出そうとしています。愛知東邦大学の開学は2001年で17年前ですが、前身である東邦学園短期大学が開学したのは53年前。東邦学園としてのルーツは同じで、同じ建学の精神「真面目」を掲げる学園です。当然、ともに100周年をお祝いするテーブルにつくべきだと思っています。「新たな百年」事務局が発足したことで、これから100周年に向けた具体案も出てくるものと期待しています。

東邦会では５年前の90周年記念総会の時、学園の建学の精神にまつわる話とか、男女共学など大きな流れを物語風にして、俳優の江守徹さんや文学座団員による朗読劇を企画しました。美術科卒業生３人の絵画作品もコラボし、東邦学園の歴史を体感できる企画として好評でした。

100周年を迎えるにあたり、学園の歴史を絶やさないこと、過去を振り返りながら将来に向けてどのような学園のイメージをつくり込んでいくか。それが大事なことだと思います。

「新たな百年」事務局がスタート

法人事務局の新しい部署として4月から「新たな百年」事務局が設置されました。学校法人東邦学園でも今後、同事務局を中心に100周年事業計画の具体化が計られていきます。

学校法人東邦学園は、1923年の東邦商業学校の開校から数えると、2023年に創立100周年を迎えます。東邦学園はこれからも永続的に教育機関としての役割を担っていかなければなりません。

今後の基本方針としては、95周年の本年度から創立100周年以降の教育活動について、愛知東邦大学と東邦高等学校は「一人ひとりを見つめ、可能性をはぐくむ」ことを根幹に置き、それぞれの教育部門で確立する具体的な教育目標を定め、学生・生徒のための100周年事業計画を具現化していきます。

現在、具体的な事業の内容や、その実現に向けた募金活動計画やスケジュールを検討しています。今後、皆様に様々なお願いをさせていただきますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

「新たな百年」事務局事務長・齋藤周一

東邦学園
物　語

学園史空白の危機をつないだ旧制東邦中学校

東邦中学1回生　牧　順さん（シマダヤ特別顧問）

東邦学園95年の歴史を途絶えさせないため、〝緊急登板〟のような役割を果たした学校がありました。1946（昭和21）年４月に開校し、272人の入学者を迎えた「旧制東邦中学校」です。旧制から新制への学制切り替えの見通しが不透明な中での開校でした。東邦中学１回生で、最後の東邦商業学校生たちとも学園生活を共にした製麺業シマダヤ（本社・東京都渋谷区）の社長、会長を歴任し、現在は特別顧問の牧順さん（85）に語っていただきました。（聞き書き・法人広報企画課　中村康生）

東邦中学時代の思い出を語った牧さん
（東京都多摩市の自宅で）

私が入学した東邦中学校は旧制でした。戦争に負けて学校制度も混乱期でした。「東邦商業」の知名度に惹かれた面もありましたが、時代が動いていたので「東邦中学」でもいいかなとも思いました。自宅が名古屋市昭和区川名本町にあり、通学には便利で、家から市電で車道に出てすぐでした。

入学した当時、赤萩校舎には、東邦商業の４年生と５年生がいて、校舎は違いましたが大同工業学校の生徒もいました。

クラブ活動は東邦商業の先輩たちと一緒にしました。実は私も東邦商業の野球部はあこがれでした。ただ、小学校を出たばかりの１年生にとって、上級生たちの体格は大人と子供のような差がある。しかも、伝統ある野球部。上級生たちが投げるのは大人のボールで、その速さにびびってしまいました。野球部はあきらめて入ったのが水泳部でした。東邦中学とはいっても実際には東邦商業に入ったような気持ちだったので何の違和感もなく先輩たちに鍛えてもらいました。

上級生は東邦商業生だった水泳部
（東邦商業20回生アルバム）

プールへの給水で廊下が水浸しに

赤萩校舎のプールはひどい状態でした。焼夷弾を落とされているので、注意しなければけがの心配もありました。排水バルブが壊れていて、いくらバケツで汲み出してもらちがあかない。どこからかパイプを探してきてみんなで吸って排水しました。

水を入れる時も大騒ぎになったことがあります。校舎の正門前に消火栓があって、そこから校舎の廊下を経てプールまでホースを引っ張って入れました。みんなで力を合わせてね。ところが、ホースにはあちこちに穴が開いていて廊下が水浸しに。しまいには水を吸って廊下が盛り上がりぐちゃぐちゃになった。怒られたなあ。

みんなに喜ばれたことがあります。父親が経営していた製麺工場から小麦を持ち出して、パン屋でパンに換えてもらって水泳部に持ち込んだんです。ひもじい時代でしたから、部員たちのエネルギー源でした。その代わり、水泳部の練習を終えた夕方帰宅してからは家の仕事を手伝っていました。日曜日も練習はありましたが私は仕事があり、午後から出て行って先輩に怒られたこともあります。

水泳部の部長は後に東邦高校の校長になった浅井（旧姓林）静男先生。若く、〝ハヤバン〟と呼ばれていて、かわいがってもらいました。私が東京に出てからも、先生が上京のおりにはよく呼び出され、一緒に楽しいお酒を飲みました。

新制中学に変わり3年生で卒業

３年生になった時、東邦中学校は新制中学となり、３年生で卒業ということになりました。旧制中学なら５年制ですので４年生に進級するのですが、もう働くか高校１年生を選ぶしかありませんでした。

中学を卒業した年、父は「株式会社島田屋」を設立して本格的な製麺業を始めました。社名は父の実家が天白村（現在の名古屋市天白区）島田にあったことに由来します。私も島田屋社員として家業を手伝いながら、菊里高校の定時制に通いました。うどんの製造卸ですので、昭和区のあちこちを回って卸しました。八事の山を越えた所には、校長になられた下出貞雄先生の家もありましたよ。

働きながら学んだ４年間を親父は見ていたのでしょう。菊里を卒業と同時に東京に出されました。東京に進出していた島田屋の東京支店を任されていた叔父を手伝うためです。やがて、親父も上京してきて、本社を名古屋から東京に移し、恵比寿西に本社を構え、「シマダヤ」へと飛躍することが出来ました。

特集2
ブランディング
インタビュー

「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」学生一人ひとりの可能性を大切に育てる大学を目指します

2018年4月に大学のコンセプトとブランドシンボルを定めた愛知東邦大学。ブランド制定に中心的に関わってきた経営学部の上條憲二教授と長沼均俊常務理事に、経営学部４年生で「ブランド構築論」を学んだ現役大学生の瓜生直人さんが聞きました。

瓜生：コンセプトフレーズやブランドシンボルを制作することになったきっかけを教えてください。

上條：私はもともとブランドコンサルタントの仕事をしていました。４年前に愛知東邦大学に来て感じたのは、歴史があって素直な学生が多いんだけど、全体的に地味な感じがしました。これをなんとかできないかと思ったのが最初です。当時、ことあるごとに「ブランドって大事ですよ」という話をしていました。理事長にも「95周年を迎えたときに、ユニバーシティアイデンティティを作ったらどうか」と。

長沼：18歳人口の減少という環境変化を、東邦学園として乗り越えていくには、歴史・文化の違う大学と高校がともに発展していかないといけない。これをブランディングという考え方で進められないかという問題意識がありました。手始めに2015年、統一したイメージでウエブサイトを作り替えたり、パンフレットの雰囲気をガラリと変えたりしました。

上條：ブランド推進委員会ができたのは、翌年の2016年４月ですよね。教員、職員、東邦高校の方など７人のメンバーが集められたんですよ。長沼先生が委員長です。これ以降、ブランドの話がグイッと進みました。

瓜生：僕が２年生のときに、大掛かりな調査がありましたよね。

長沼：学生、教員、職員、保証人様、卒業生、本学の就職先、東邦高校の生徒、東邦高校の教職員を対象に実施した大規模調査ですね。うちの大学はココがダメ、解決すべき問題がたくさんある、どこを目指すべきなのか、というのをみんなで見つめましょうと。全部で3039人に回答をもらいました。

瓜生：大学の問題点として、どんなことがあがっていましたか。

上條：いろいろありましたよ。「知名度が低い」「研究体制が弱い」「学生の質が低い」「教員の質が低い」。先生も教職員も本音をぶちまけました。まずは問題を共有しましょうと。大学の満足度も調査しましたが、学生の満足度はあまり高くはなかったんです。同じ調査を東邦高校にしたら、満足度がすごく高くて、それがいろんな活動につながっている。うちの在学生回答数約1000人中54％が「別に～」って感じでした。ただひとつわかったのは、就職した先での評価はすごく高い。卒業したら実力を発揮している。どうやら個人の特技や特徴は、すごく光るものがあるぞというのがぼんやり見えてきました。一方、

長沼常務理事が学園の会議で、理事の人たちに説明をしてくれたんです。それはどんな感じだったんですか。

長沼常務理事

長沼：2013 年の中長期経営計画に「学園としてのブランディング」というのが書かれているんです。今回は大学からスタートする話だったので、高校が置いてきぼりにならないか心配する意見がありました。

上條：東邦高校は「さわやか東邦」のイメージが確立されているんですよ。一方、大学は知名度は低い。これをいっしょにしてしまうと、逆に東邦高校に別のイメージが付いてしまうと説得したんですよね。

長沼：学園としての一体感を出していくのは 100 周年のときに、ということで理事会では落ち着きました。そのコンセンサスを得るのに数ヶ月かかりましたね。

瓜生：「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」に決まったコンセプトフレーズですが、他にどんな案がありましたか。

長沼：全教職員から案を出してもらって、かなり候補が集まりましたね。

上條：ぜんぶで 11 個ぐらい二重丸を付けたのがあって、「原石を宝石に」とか「名古屋の地域を育てていく」とか。「Small Campus Great Potential」と、すごく大きなことを言ってるテーマもあって、どれも捨てがたいなと。東邦学園創始者の下出民義さんは、名古屋の産業基盤を作った人なんですね。まさにオンリーワンの力を大正時代の名古屋で示してきた人。「個の力を磨く」というのは、東邦学園のルーツにもつながるということで、最終的には「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」に決まりました。

包み紙を変えるだけじゃなく大学の中身を変えることが大事

瓜生：ロゴもシンプルでかっこいいですよね。

上條：協力してもらった会社に 10 案ぐらい出しても

コンセプトとともにブランドシンボルを策定

愛知東邦大学
AICHITOHO UNIVERSITY
オンリーワンを、一人に、ひとつ。

オレンジ色の 2 つのラインは、自立した学生と教職員を表します。その間にある白のラインは、両者が向き合うことで生まれるオンリーワンの力や、進むべき 1 本の道を示しています。

らったんですよ。今の案の他に、宝石をかたどったものだとか、みんなが活動してる様子をモチーフにしたものだとか。大学の今の特徴としては「明るい」というのがあると思うんです。そこから向かう先として、「スマート」「知的」よりも、「元気」の方が本学らしいと。それを表すオレンジや赤の暖色系をモチーフにしようと。今まで大学が使っていた色はグリーンだったので、そこも様々な意見がありました。ただ、グリーンの校章はそのままです。

瓜生：サッカー部のユニフォームもすごく変わりましたよね。新しいのはオレンジのラインがカッコいい。

長沼：緑の芝に映えるよね。

上條：ロゴデザインをした会社と、ユニフォームの会社が、ありきたりのデザインはやめようと議論しながら作っています。女子学生からも「かわいい」とよく聞きますし、好評ですよね。

瓜生：大学パンフレットも年々変わっていて、数年前と比べたら違う学校みたいですよね。高校に並べられたときでもインパクトがありますよ。

上條：高校生に近い人にそういってもらえると嬉しいね。実は私もこのロゴになったとき、「大丈夫かな」っていう保守的な気持ちもありましたから。東邦高校の先生が「他と並んだとき、埋没してしまいますよ。腹くくってやりませんか」と言ってたのは正解でしたね。

瓜生：今日は先生のネクタイもオレンジですよね。

上條：学生の前で話すときとか、何かの折には必ずこのネクタイをしようと決めたんです。「あの派手なネクタイ、何？」と思われてもいいという覚悟で（笑）。ブランド推進委員会のメンバーは、何かしらオレンジを身につけるなどしています。エルメスのカラーが同じようなオレンジなので、このネクタイは銀座のエルメスまで足を運んで買いました。ロゴの色を持って行って「この色のものをください」と。

瓜生：コンセプトが決まることで、大学はどのように変わるんでしょうか。

長沼：包み紙だけ変えて中身が同じだったら意味はないので、かなり議論しました。そこから出てきたのが、公務員採用試験突破を目指す「東邦 STEP」の充実や、大学に入ってからの学び方を事前に計画してもらう「自己プロデュース入試」などですね。

上條：画期的な入試方法だと思いますよ。面接という名のプレゼンテーションをしてもらうんです。入る前からすでに「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」なんですよ。

長沼：社会に出て活躍するための総合的な力を付けるには、大学も高校も変わらないといけないと、国が「高大接続改革」を進めています。それと関係してくるんですが、高校生のときから自分に向き合って、卒業後のビジョンを描く力を身につけるための「じぶんブランディング」プログラムを作りました。そのための手帳も用意しています。

上條：「じぶんブランディング手帳」がよくできているのは、愛知東邦大学の匂いがほとんどないんです。便利なものがあるな〜っと思って使っていくと、最後に大学の名前が書いてある。表紙にどーんと大学名を出した手帳を配って、ほとんど使われないっていうのが普通なんだけど、これは非常にうまく作ってあると思います。

長沼：うまく愛知東邦大学のファンになってもらえばいいですね。

上條：先生たちも、授業の中身やカリキュラムを「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」にあわせて変えていこうとしています。コンセプトフレーズを実現するために、9 つのクレド（信条・誓約）を定めたんですが、教職員のクレドに「学生に尊敬される身近な社会人」というのがあるんです。先生が尊敬されていなければ学生が育つわけありませんから。我々は社会人のプロになろうということです。

長沼：地味なんですけど、こういうやり方で、瓜生君みたいな学生をいっぱい育てたいんですよ。

社会に出て本領を発揮できる強みを持った人材を育成

瓜生：コンセプトフレーズが決まる前ですけど、僕は名古屋グランパスとの連携授業を受けました。あれは他の大学ではない取り組みですよね。就職活動でもアピールポイントになりました。

上條：スポーツビジネスを学んで、名古屋グランパスのグッズを作ったりしたんだよね。

瓜生さん

瓜生：そうです。面接で話せば企業の方も食いついてくるし、やってることにウソはないので、すごく武器になったかなと。

上條：高校時代からの流れで、知識をインプットすることが学ぶことだという考えが染み付いていると思うんだよね。そこで主体性が消されてることを国は憂いてるわけですよ。名古屋グランパスの授業は、入ってきた知識をアウトプットすることでしょ。そういう学び方を大学でやらなくちゃいけない。

上條教授

長沼：「うちの学生は社会に出ると強い」っていうのは、そのあたりが得意な人間が多いんじゃないかな。そういう意味でプロジェクト型の授業というのは、愛知東邦大学の大きな特徴ですね。私が東邦高校で担任した、サッカー部で全国に行った選手がこちらの大学に進んだんだけど、けがでサッカーができなくなっちゃったんです。その子がクラス会で「この小さな大学に来たから、自分のアイデンティティが確立できた」と言ってくれました。総合大学じゃなくて、このサイズの大学だからこそできる教育というのはありますよね。

上條：この前も、この学生は社会に出て大丈夫かなと思っていた卒業生が学校に来て、「小さい会社の社長をやっている」と。本当に外に出たときのポテンシャルが高いんですよ。有名企業に就職するわけじゃないんだけど、小さなところで自分なりの居場所を見つけて輝く。これは先生も職員も学生も自信を持っていいと思います。

長沼：今回は先生たちがしっかり議論に関わったのもよかったですね。誰かが決めた方針じゃなくて、自分たちのことなんだと実感できます。ここまで学部を超えてコミュニケーションを取れることも今までなかったでしょうから。学生に対しても一貫しているんですよ。入る前の高校生に対して「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」の施策。入学した学生に対しては東邦 STEP や、自分を育てるためのプログラム。卒業したあとも、この考え方を基盤として花開いていく。

上條：「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」って単純な言葉だけど、学生にとっても教員にとっても、何かあったときの「軸」ができた気がします。大きな大学のコンセプトと違って派手さはないですけど、自分たちの特徴や個性を客観的に捉えて、コンセプトにともなって中身も変えるというのは、他大学では真似できない、すばらしいブランディングだったと思っています。これからが本番ですが。

Ⅱ 高校／行事・クラブ活動

第69回卒業式を挙行　２月28日

第69回卒業式が２月28日、多くの来賓、保護者の見守る中、体育館で挙行され、541人が巣立っていきました。卒業生答辞では美術科の内藤香帆さんが３年間の思い出に感謝を込めて、教職員、保護者に向け語り尽くし、とても感動的な式典になりました。

新入生617人を迎え入学式　４月５日

桜の咲き誇る４月５日、体育館で2018年度入学式が挙行されました。新入生代表の林真子さんが力強く「誓いの言葉」を述べ、東邦生として歩みだしました。翌６日には始業式、クラブ紹介が行われました。

１年生が学級合宿　４月18～20日

１年生は２グループに分かれ１泊２日で学級合宿を実施。前団は18、19日に、後団は19、20日にそれぞれ恵那、湯の山で合宿。全団、良い天気にも恵まれ元気にバーベキューを楽しみ、クラス作りに取り組みました。

２、３年生が遠足　４月19日

３年生は４月19日、４団に分かれ、嵯峨野～嵐山、伊勢神宮～おかげ横丁、彦根城～長浜、三十三間堂～清水寺に、２年生も４団に分かれ、八曽キャンプ場、八風キャンプ場、妻籠・馬篭、リトルワールドで遠足を実施しました。天気も良くそれぞれが予定通りの行程で楽しみました。

名東区の地元自慢スポット地図「MEITO MAP」を作成

写真部顧問　杉浦　見奈子

2018年度の写真部は、男子12人、女子27人の生徒39人と顧問２人で活動をスタートしました。

写真部が地域連携活動の一環として取り組んだ「MEITO MAP」が遂に完成しました。３Ｊ藤井涼輔君の発案で、「写真部で名東区の地元自慢スポットの地図を作成したい」という思いが、５月に冊子になりました。見過ごしてしまいそうな名東区19学区の自慢スポットが紹介されています。

「MEITO MAP」と藤井涼輔くん

榊直樹理事長からもご講評とアドバイスのお言葉を頂き、５月に常滑市で学外撮影会を実施したところ、「理事長のアドバイスを参考にしてより良い写真が撮れた」と喜んでいる生徒が何人も見受けられました。「MEITO MAP」の取り組みは、７月に行われるサマーセミナーと９月の文化祭でも発表します。是非ご高覧をお願いいたします。

常滑市内で学外撮影会をした写真部員たち

「MEITO MAP」など写真部の活動は、地域連携としては、まだまだささやかな活動ですが、学園関係者や保護者、地域の皆さま方に喜んでもらえるような活動を引き続き行ってまいります。また、今年度に入って、既に６つの公募に応募しています。公募で勝ち抜いていくには技術や表現で厳しい面もありますが、部員のひたむきな姿勢に期待し、大きく成長を遂げてくれることを願ってやみません。これからの部員の活躍が楽しみです。

硬式野球部が春季東海大会で54年ぶり３回目優勝

硬式野球部コーチ　山田　祐輔（保健体育科教諭）

硬式野球部は４月５日より行われた春の県大会で準優勝し、5月18、19、20日に開催された第65回春季東海地区高等学校野球大会に出場することができました。

１回戦から他県の強豪校を圧倒し、54年ぶり３回目の優勝を勝ち取ることができました。試合に出ている選手、ベンチ、スタンドが一体となってつかんだ優勝であり、夏に向けて大きな自信となりました。球場へ足を運んでくださった多くの皆様からたくさんの力をいただきました。チーム一同、心より感謝申し上げます。

県大会ではすっきりとしない試合展開が多く、課題も見つかりました。しかし、東海大会までの数日で練習内容を工夫し、攻撃・守備に関して無駄のない、粘り強い野球ができました。さらにチーム力を上げ、全員野球で100回記念大会となる夏の甲子園に必ず出場します。引き続き応援をよろしくお願いいたします。

年間行事（2018年度）

７月
- 生徒会競技大会、終業式、夏期休暇、夏期補習（前期）、就職指導個別面接

８月
- 夏の英語研修、納涼音楽祭、夏期補習（後期）

９月
- インターンシップ報告会、始業式、面接週間、実力考査（全学年）、学級懇談会（３年）、学園祭（体育祭、文化祭）

10月
- 中間考査、芸能鑑賞、美術科卒業制作展、学級懇談会（１・２年）、英語スピーチコンテスト

11月
- 修学旅行、期末考査

12月
- 慰霊の日、学級懇談会（３年）、終業式、冬期休暇

１月
- 始業式、面接週間、学年末考査（３年）、実力考査（１・２年）

２月
- マラソン大会、修学旅行（人間健康コース）、予餞会

３月
- 卒業式、学年末考査、実力考査、終業式

第７回定期演奏会を終えて

軽音楽部顧問　水谷　光博

恒例となった春の定期演奏会を４月末に栄のライヴハウスROXXで開催しました。第７回で、部員の保護者や新入生、部活OB、OGの卒業生を中心にたくさんの方々に来ていただき、日頃の練習の成果を発表する機会を持つことができました。

昨年１月から練習して来た成果として、11グループが４時間にわたり40数曲を演奏しました。部員やその家族にとってたいへん幸せな一日となりました。また、５月６日には学校の近隣にある、戦争と平和の資料館「ピースあいち」を訪問し、３人の部員が７曲を弾き語り演奏し、「ピースまつり」を盛り上げました。そして運営資金募金（5500円）にも協力しました。

この春、軽音楽部は48人の１年生が入部をし、中間考査を終え、一生懸命に練習を再開しました。団結し、部員一丸となって次の演奏会である「愛知サマーセミナー」に向けて頑張っていきたいと思います。

「クエストカップ」全国大会に６年連続６回目出場

山本　俊秋、池田　暁生

「クエストカップ2018」全国大会が２月24日、第１回クエストカップの会場である立教大学に開催の舞台を戻し開かれました。東邦高校は本プログラムを2012年に導入して以来、６年連続となる６回目の出場を果たしました。

大会には普通科からテレビ東京を担当した１チームが選出されました。このチームは５人の男女混成チームで、チーム内での役割分担や弱みを補い合える強いチーム力を持っていました。このチームが考え出した奇想天外なアイデアは、テレビ東京の審査員を、自分達の世界観に見事に引き込む事ができていました。結果は惜しくも企業賞を逃したものの、テレビ東京からは高い評価を受けました。

今後も、探究的な学びを通じて、生徒たちが自ら考え行動する力を育む、一助となるよう教育活動に取り組んでいきます。

５年ぶりに東海大会出場権

軟式野球部部長　川邉　雅志

軟式野球部は5月26日、津島球場で県大会準決勝を迎えました。相手校は、ここまでの2試合を、いずれも10点差、5回コールドで勝ち上がってきた桜丘高校。大会優勝候補の強豪です。本校も苦しい試合を覚悟していました。

しかし、今年の本校は、キャプテン杉浦を中心に各々が役割を明確に果たすことのできる、とても完成度の高いチームです。当日は、予想外に終始本校のペースで試合を進めることができました。終わってみれば、７対１。７回コールドの快勝で、東海大会への出場権を得ることができました。応援に駆けつけてくれたバトン部諸君はもちろん、多くの父母、OBの声援が５年ぶりの東海大会出場に導いてくださったと感謝しています。

残念ながら決勝では享栄高校に２対３と惜敗し、優勝は逃しましたが、東海大会、さらに夏の選手権大会に向けて、一丸となって練習に励んでいます。引き続き応援のほど、よろしくお願いします。

「育て400人のオンリーワン」入学式で学長が式辞

入学式が４月１日、Ｓ棟２階アリーナーで行われ、３学部の新入生が学生生活をスタートさせました。新入生は402人で2014年度の370人を上回る過去最多。榊直樹学長は式辞で、「本学はきょうからブランドシンボルとブランドコンセプトを打ち出しました」と、オレンジ色２本のラインからなるブランドシンボルと、「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」のブランドコンセプトフレーズを紹介しました。

「スポ・音推薦」特別奨学生１年生30人に証書交付式

スポーツ・音楽推薦特別奨学生として入学した１年生30人への証書交付式が４月４日に行われました。硬式野球部９人、男子サッカー部13人、女子サッカー部７人、吹奏楽団１人。全員スーツ姿で臨んだ30人に榊直樹学長は、「課外活動始め、在学生の模範となり、リーダーとして活躍することを期待します」と証書を読み上げ、激励の言葉をかけながら一人ひとりに証書を手渡しました。

ラーニングハウスで11人を迎え入寮式

愛知東邦大学学生寮「TOHO Learning House」の2018年度入寮式が３月31日、名古屋市名東区社台の同寮で行われました。オープン３年目を迎えた入寮生はこれまでで最多の11人。３人は中国の広東外語外貿大学南国商学院からの編入学生です。

年間行事（2018年度）

7月 オープンキャンパス、前期講義終了、前期末試験

8月 前期末試験・夏期休暇（8/6～9/19）、オープンキャンパス、納涼音楽祭、教員免許状更新講習、インターンシップ

9月 幼稚園教育実習、教育懇談会、後期講義開始

11月 オープンキャンパス、保育所実習、大学祭（和丘祭）

12月 保育所実習、冬期休暇（12/25～1/6）

1月 後期講義終了、後期末試験

2月 後期末試験、就職合宿、卒業研究発表会、春期休暇（2/7～3/31）

3月 卒業証書授与式、学内企業展

教育学部１年生70人が８小学校運動会でサービス・ラーニング

教育学部の１年生70人（男子30人、女子40人）が名古屋市名東区の全８小学校で開催された運動会の運営を手伝う「サービス・ラーニング」を体験しました。学生たちは６～10人に分かれて参加し、金曜日の５月25日午後の会場設営準備と土曜日26日の運動会本番で多彩な活動を行ないました。2014年度の教育学部開設と同時にスタートした１年生の「サービス・ラーニング」は５年目。全国の大学で流布している単なる「学校ボランティア」ではなくて、地域の諸機関での奉仕活動（サービス）を通じて経験学習（ラーニング）を行なう独自の取り組みです。

部活動のつながり　深め互いに成長を

第2回　クラブ活動報告会

200人が参加して開かれた活動報告会（体育館で）

愛知東邦大学でクラブなどに所属する学生たちが、「横のつながり」の強化や意識改革をめざす2018年度クラブ活動報告会が５月24日午後４時半からＳ棟の体育館で開催されました。昨年に続き２回目で、学生会と強化指定クラブ４団体（硬式野球部、男子サッカー部、女子サッカー部、吹奏楽団）とクラブ６団体（軟式野球部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、フットサル部、ATTO、アルティメットクラブ）の計11団体に所属する学士たち約200人が参加しました。

学生会

大学とともにブランドシンボルを発信

今年度の方針は「共につくる」。大学は新たにブランドカラーやブランドシンボルを掲げたが、学生会実行委員会でも大学の代表として活動していくにあたり、このブランシンボルを掲げ、大学と地域の関係をいっそう強いものにしていきたい。

硬式野球部

全員の競争力高め1部昇格へ

４年生15人、３年生14人、２年生19人、１年生17人の65人で活動中。春季リーグは４位という悔しい結果に終わった。秋に向かってリセットし、全員の競争意識を高めていく。皆さんの応援を力に変えて、今年こそ悲願の１部昇格を果たしたい。

男子サッカー部

チーム一丸で結果残したい

昨年は前期２位で折り返したが最終的には４位だった。今年こそは昇格をめざして、フィジカルトレーニングにも力を入れ、一人ひとりが最後まで走り切ろうと練習に励んでいる。実力のある１年生部員も迎えたのでチーム一丸で何としても結果を残したい。

女子サッカー部

2つの〝初〟を2年連続で

2017年度は日本の女子サッカー頂点を決める皇后杯大会出場と、東海１部リーグ優勝の２つ〝初〟を体験し、新たな歴史を創った。しかし、４年連続５回目出場のインカレでは目標のベスト８進出はならなかった。2018年度は「ともに」をスローガンに、インカレでの雪辱を晴らし、昨年度の〝初〟が２年連続となるよう、笑顔と感謝で頑張ります。

吹奏楽団

地域に愛されるアイドルバンドに

地域に愛されるアイドルバンドをめざし、12人の部員で活動中。聴く人たちとの笑顔と感動を共有しながら年間40回を超すイベント参加をめざしたい。皆さんの公式戦応援演奏を楽しみにしています。

軟式野球部

連勝を重ねて１部リーグに

中部日本学生軟式野球連盟に所属。春、秋のリーグ戦に参加しているが、新チームで臨んだ昨年秋リーグ戦では入れ替え戦に出場できなかった。この悔しさを晴らそうと猛練習を重ねてきた。連勝を重ねて２部１位となり、何としても１部に上がりたい。

男子バスケットボール部

当前のことを当前に

東海学生バスケットボール連盟に加盟。年２回行う10校程度での合同練習試合などに取り組んでいるが、残念ながら昨年の大会は春も夏も全敗。2018年は前年に続き「当たり前のことを当たり前のようにする」のスローガンで個々の技術力向上をめざしたい。

女子バスケットボール部

チームを大きく成長させたい

選手６人、マネジャー２人、トレーナー１人の９人で活動中。優勝実績もある三河リーグ戦では今年も優勝したい。人数は少ないが今年はできるだけ多くの試合を体験し、個々の試合にしっかり臨みたい。部員を増やしてチームを大きく成長させたい。

フットサル部

３部復帰をめざす

愛知県フットサルリーグ４部に所属し、主に社会人チームと対戦している。昨年は残念ながら２勝１分け６敗で10チーム中９位に終わり、４部に降格してしまった。シーズン中に出た課題を修正できなかったため。チームを立て直し、１年での３部復帰をめざしたい。

ATTO

地域に喜んでもらえる活動を

ATTO（愛知東邦トレーナー組織）は現在１年生12人、２年生８人、３年生３人、４年生15人の計38人で週２回（火、木）活動中。昨年は創部10周年で、歴代先輩を招き懇親会を開催。2018年度も５月には名東区民まつりで来場者マッサージを提供した。地域貢献で地域の方々から喜んでもらえるよう頑張りたい。

アルティメット部

東邦部員だけで大会出場へ

部員が４年生３人、３年生、２年生各１人とマネジャー１人に、１年生９人を迎えた。練習は月、火曜日の夜19時～21時で、東邦高校グラウンド行っている。名古屋学芸大と合同で試合に出場しているが、東邦部員だけでの大会出場が目標。

高校 「25年前の東邦高校生たちに感謝したい」
白血病で逝った息子の父が下出元理事長の墓前に
南京外国語学校の元国際交流室員の許さん

生徒たちが募金で見舞金

東邦高校と姉妹校提携を結んでいる南京外国語学校の元外事弁公司（国際交流室主任）だった許華発さんが４月16日、名古屋市千種区自由が丘の墓苑にある、下出保雄元理事長の墓前に立ち、深々と頭を下げました。

許さんは25年前、自身が勤務する南京外国語学校の生徒だった息子さんを白血病のため亡くしました。許さんは当時、東邦高校との交流窓口担当者であったことから、東邦高校の生徒たちの間でも、病床にあった息子さんのために募金活動が行われ、「元気になって」というメッセージとともに見舞金が送られました。

許さんは南京外国語学校を退職し、現在は中国の民間教育機関の顧問を務めています。４月にこの教育機関オーナーとともに東邦高校を訪問し、25年前、東邦高の国際交流室で中国担当教員だった佐野良昭先生（2017年３月に退職し現在は講師）と旧交を温めました。 当時は国際コースの生徒として募金活動に加わった国際交流室の伊藤保憲教諭も交えての懇談で、許さんは改めて25年前の東邦高校生たちの友愛精神に満ちた行動に感謝の思いを伝えました。

「雪中送炭　功徳無量」

許さんと奥さんの陳雲玉さんは、息子さんが亡くなった翌年の1994年、南京外国語学校から派遣されて１年間、東邦高校に赴任した日本語教員に託して、感謝の気持ちを込めたペナント（旗）を届けました。

許さん夫妻から東邦高校に贈られたペナントと佐野先生

「日本名古屋東邦高等学校　雪中送炭　功徳無量」。書き込まれた許さん夫妻の思いを、佐野先生が「〝東邦高校の皆さんは、苦しい中、必要なものを送ってくれた。限りない恩義を感じています〟という内容です」と解説してくれました。

東邦高校と南京外国語学校との友好協定の締結は1988（昭和63）年９月。佐野先生も何度か南京を訪れ許さんと会っていました。許さんも東邦学園の創立70周年記念式典が行われた1993（平成５）年に、南京外国語学校から校長ら３人で来日し式典に出席。当時の下出保雄理事長と懇親を深めました。

交流で育まれた絆

下出家の墓を訪れた許華発さん（中央）。左は榊理事長

許さんは今回の東邦高校訪問で、下出保雄氏が2004（平成16）年１月、81歳で永眠したことを知りました。「ぜひお世話になった下出先生のお墓参りをしたい」。許さんの強い希望で、翌日、許さんは下出保雄氏の甥にあたる榊直樹理事長の案内で、下出家の墓前に立ちました。榊理事長の見守る中で、許さんは深々と墓前に頭を下げました。

同行した伊藤教諭は「横から見ていて、下出元理事長や当時の生徒たちへの感謝の思いがこれほど深いものだったのかと痛感しました」と話しています。

佐野先生も、久し振りに広げたペナントに目を落としながら、「中国の人たちには、昔から〝井戸を掘ってくれた人の恩は忘れない〟など、恩義にはしっかり尽くしたいという思いが強い。今回訪日し、25年前の東邦学園を率いていた下出保雄先生の訃報を知って、いてもたってもおられなかったのでしょう」と語りました。

25年前に東邦高校で繰り広げられた募金活動を知る関係者は今ではほとんどいなくなりました。今回の許さんの東邦高校訪問、下出家墓前での合掌は、姉妹校交流によって育まれた絆が、両校にとってかけがえのない財産であることを思い起こす良い機会となったとも言えそうです。

高校 4か国5校姉妹校交流会を来年から毎年開催へ

４か国５校姉妹校交流会は、本校が提携する中国、ニュージーランド、オーストラリアの姉妹校各校から代表生徒と教員が集合して、２週間の会期で開催される交流会です。ニュージーランド姉妹校を会場に開催された2018年の第11回交流会は、Sustainability「持続性」をテーマに４月30日から５月３日まで開かれました。

各国の生徒たちは、テーマに基づいて、野鳥や水、農業の持続性についてプレゼンテーションをしました。東邦高校から参加した生徒５人は３年生の田中春乃さんと２年生の河合麻結子、池尻陽香里、永見幸大朗、柴田奈緒さんで全員普通科。

東邦高校の生徒がプレゼンテーマに選んだのは、名古屋伝統産業の「凧」でした。すべての原稿を暗唱して発表したこともあり、聴衆からは賞賛と励ましの拍手が鳴りやみませんでした。２週間の交流で育まれた参加生徒たちの友情は深く、別れの時には涙が止まらなかったようです。

本交流会は東邦高校の発案で1997年に開催されて以来、会場を持ち回りにして２年に１度開催されてきました。しかし、世界のグローバル化の深化に伴う国際教育の重要性は各校の間で一致した認識となり、２年に１度から毎年実施することを確認しました。次回の本交流会は2019年東邦高校を会場に実施される予定です。

（国際交流室・伊藤保憲）

ニュージーランド姉妹校を会場に開催された第11回交流会

大学 南国商学院理事長を迎え交流記念プレートの除幕式

愛知東邦大学と広東外語外貿大学南国商学院の交流協定締結を記念するプレートがH棟玄関前に設置され、５月15日、来日中の丁小軍理事長と榊直樹学長による除幕式が行われました。

除幕式には、同学院から丁理事長と日本語学科の許静華、呉麗の両教員、愛知東邦大学から榊学長、若林努副学長らが出席。見守った愛知東邦大学職員らを前に丁理事長は、「愛知東邦大学と本学院との間で盛大な式典を開催できたことを大変光栄に思います。このようなチャンスを作っていただいた榊学長には心から感謝するとともに両大学の交流が末永く続くことを願っています」とあいさつしました。

記念プレート除幕式を終えた榊学長と丁理事長

下出民義翁の書について榊学長の説明を受ける丁理事長

除幕式に先立ち丁理事長らは第４会議室で榊学長らと懇談。同会議室に飾ってある学園創設者の下出民義翁が書き残した書（佐藤一斎『言志録』第233条）に大きな関心を寄せた丁理事長に対し、榊学長は、「創設者が、教育事業は公的事業であることに強く共感したことがうかがえる書です」と説明していました。

除幕式の後、丁理事長らは名古屋市内の幼稚園を視察。昼には大学に戻り、４月に同学院から愛知東邦大学に編入学した学生３人をまじえた昼食会、懇談会に臨みました。

高大 海外演奏活動の実現めざし「TMB」が始動

愛知東邦大学吹奏楽団と東邦高校のマーチングバンドが2018年度から、東邦学園の公式バンド「TOHO MARCHING BAND」（略称ＴＭＢ）として活動を開始しました。両バンドはここ数年、様々なイベントで合同編成による演奏・演技活動を行なってきました。

合同編成によるＴＭＢでは、活動の柱として、地域イベントや企業・団体などからの要請による演奏・演技、大学・高校のクラブ公式戦での応援演奏などに取り組みます。

そして特筆すべきは何と言っても、「TOHO WORLD MARCHING PROJECT」です。 このプロジェクトは、３年に一度、海外演奏活動を実現する企画です。バンドの部員たちは、世界の舞台で自ら創り上げたＴＭＢの発表を通して、諸外国に住む同年代の音楽仲間たちと出会い、交流する中で、互いに刺激し合い、世界中の芸術文化を肌で感じることができます。

愛知東邦大学入学式で（4月1日）

そして何より、ＴＭＢが生み出すエンターテイメントを、日本国内に限らず、世界中に発信する中で、地域の芸術文化の発展に貢献していきたいという強い思いがあります。

すでに2019年３月に渡米し、フロリダのディズニーワールド、ユニバーサルスタジオフロリダでのパレードの他、現地でのチャリティーコンサートの開催が決定しています。

セントレア・スカイ・マーチング・フェスティバル（5月27日）

大学・高校の顧問団に加え、このＴＭＢの活動を統括しトータルコーディネイトしていくために、東邦学園の長沼均俊常務理事を総監督に、大学吹奏楽団・高校マーチングバンドの監督である白谷峰人が音楽監督として就任しました。

サポート体制も充実した環境で活動を展開していきます。今後の活動に、是非、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

甲子園ではファンも多い応援バンド（3月26日の花巻東高校戦）

（白谷峰人）

東邦学園　事業報告・事業計画

2017（平成29）年度　事業報告

2017年度は「競争環境激化の中、新たなニーズに応え」「年間出生数が100万人を割った大波が押し寄せても、学園を揺るがせない基盤の強化」を事業計画の柱に掲げスタートした。

大学では知名度向上を図る方策を強化し、ブランディングを最終段階まで進めて、2018年度の志願者と入学者が創設以来最多となった。教育学部は完成年度を迎え、初の卒業生から公立の小学校教員が誕生した。

高校は普通科と美術科の２学科体制となり、普通科・人間健康コースから初の卒業生が巣立った。クラブ活動では、硬式野球部がセンバツ甲子園に２年ぶり29回目の出場、水泳部、空手道部、吹奏楽部、バトン部、ダンス部、放送部も全国大会に駒を進めた。

事務局は2023年の学園創立100周年に向けて、大幅に刷新した体制を整え、100周年記念行事や新たな事業を展開する部署の設置準備を進めた。

2017年度決算は、初の大規模なマス広告、グランドの大規模改修を行ったが、予算管理の選択と集中により、経常収支差額で8,512万のプラスとなった。

【法人部門】

学園の財政は、「収支の健全性」を最優先するあまりに生じてきた「広報費の極端な抑制」を是正し、基本金組入前収支差額で収支を均衡させる方針で運営した。その結果、知名度向上策への投資が、特に大学における志願者増の効果を生み、好循環となった。

ブランディングは２年目に入り、先ず大学で具体化することとし、ブランドコンセプト等を策定し教育活動へ反映させる具体策も準備が進んだ。

学園内の東邦高校と愛知東邦大学の連携は、「内部進学」を代表とする、より丁寧で緊密な関係を築けた。過去10年間では３番目に多い43名が入学した。また、東邦高校生が愛知東邦大学で受講する科目等履修生制度を整え、2018年度から３名が受講。さらに東邦高校と愛知東邦大学の生徒・学生による「学園マーチングバンド」が結成され、合同で活動を開始した。学園のブランディングとして、新たな活動の展開が期待される。

【愛知東邦大学】

2018年度入試に向けた募集活動は過去最高の志願者を集め、入学者も３学部全てで定員を確保し、入学者も過去最多の400名超えとなった。文部科学省による定員厳格化の外部環境もあったが、知名度向上のため、鉄道の主だった駅と幹線街路へ広告を掲出したこと等が効果を生んだと考えられる。さらに、中国・広東の大学で本学初となる海外入試を実施、３年次編入生という新たな形で留学生を受け入れる道を開いた。

キャリア教育充実に向けて、2018年度からの導入策を決定した「東邦STEP」は2019年度から全学化する方向をまとめた。退学率低減へ諸方策をまとめて一部実施した。

教育学部は初の卒業生を送り出し、２人が公立の小学校教員に採用された。女子サッカー部は皇后杯に初出場を果たし、初戦を突破。大学選手権にも４年連続で出場し、ベスト16に進んだ。

【東邦高等学校】

2017年度は普通科と美術科の２学科で始まる新たな幕開けの年度であった。「選ばれる学校」として生徒の希望する進路実現に一定の成果を出すことが出来た。また、クラブ活動では、硬式野球部２年ぶり29回目のセンバツ甲子園大会出場、水泳部、空手道部、吹奏楽部、バトン部、ダンス部、放送部も全国大会に駒を進めた。１年総合クエストプログラムも１チームが全国大会に出場し善戦した。2017年度は「行事計画・学科コース」改革を提案し、討議を始めた。中学生保護者に選んでもらえる将来の東邦高校を作り上げるために叡智を結集していきたい。

2017年度　決算の概要

2017（平成29）年度の決算は、大学として初の大規模なマス広告を打ったこと、グランドの大規模な改修を行ったこと等にも関わらず、経常収支差額で8,512万のプラスとなった。また、基本金組入前当該年度収支差額は当初1,304万をマイナス計上していたが、経費の抑制によって8,733万のプラスになった。

翌年度繰越支払資金は前年度繰越支払資金17億6,654万に対して17億5,075万とほぼ同額を繰り越すことができた。

人件費比率は60.9％、管理経費は6.1％となっている。ただ、人件費を学生生徒等納付金収入で賄えるかをみる割合（人件費依存比率）でみると、93.5％と高く、収支を改善していく必要がある。なお、経常収入の中で学生生徒等納付金および教育活動収支の補助金が占める割合は、それぞれ65.1％、26.8％であった。学生生徒等納付金比率が高く、補助金比率が低くなっており、バランス上問題はないと考える。

当学園の大規模な施設・設備の更新や補修のための減価償却引当特定預金として２億658万円を充て、本年度末で８億7,046万円余となっている。

資　金　収　支　計　算　書

平成29年４月１日から平成30年３月31日まで

（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科　目	予　算	決　算	差　異	科　目	予　算	決　算	差　異
学生生徒等納付金収入	2,149,214	2,148,011	1,203	人件費支出	2,024,735	2,019,550	5,185
手数料収入	43,063	43,773	△ 710	教育研究経費支出	603,692	581,726	21,966
寄付金収入	49,205	51,477	△ 2,272	管理経費支出	209,123	198,777	10,346
補助金収入	888,428	888,234	194	借入金等利息支出	14,203	14,186	17
資産売却収入	0	0	0	借入金等返済支出	189,746	189,745	1
付随事業・収益事業収入	25,085	25,283	△ 198	施設関係支出	149,289	149,289	0
受取利息・配当金収入	1,252	1,969	△ 717	設備関係支出	31,082	23,207	7,875
雑収入	145,320	143,440	1,880	資産運用支出	220,843	206,580	14,263
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	38,005	37,997	9
前受金収入	338,841	435,848	△ 97,007	予備費	（564） 29,436	0	29,436
その他の収入	141,707	149,820	△ 8,113				
資金収入調整勘定	△ 507,097	△ 539,207	32,111	資金支出調整勘定	△ 35,116	△ 56,619	21,503
前年度繰越支払資金	1,766,549	1,766,549	0	翌年度繰越支払資金	1,566,530	1,750,759	△ 184,229
収入の部合計	5,041,568	5,115,197	△ 73,629	支出の部合計	5,041,568	5,115,197	△ 73,629

活動区分資金収支計算書

平成29年４月１日から平成30年３月31日まで

（単位：千円）

教育活動による資金収支	
教育活動資金収入計	3,297,822
教育活動資金支出計	2,800,054
調整勘定等	△ 6,077
①教育活動資金収支差額	491,691
施設整備等活動による資金収支	
施設整備等活動資金収入計	2,397
施設整備等活動資金支出計	377,076
調整勘定等	9,766
②施設整備等活動資金収支差額	△ 364,913
その他の活動による資金収支	
その他の活動資金収入計	12,147
その他の活動資金支出計	205,990
調整勘定等	51,275
③その他の活動資金収支差額	△ 142,568
支払資金の増減額（①＋②＋③）	△ 15,790
前年度繰越支払資金	1,766,549
翌年度繰越支払資金	1,750,759

貸　借　対　照　表

平成30年３月31日

（単位：千円）

資産の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
固定資産	8,759,772	8,818,407	△ 58,635
有形固定資産	7,475,698	7,713,909	△ 238,211
特定資産	1,264,707	1,058,127	206,580
その他の固定資産	19,367	46,371	△ 27,004
流動資産	1,932,797	1,906,487	26,310
資産の部合計	10,692,569	10,724,894	△ 32,325
負債の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
固定負債	1,736,457	1,912,462	△ 176,005
流動負債	785,876	729,527	56,349
負債の部合計	2,522,333	2,641,989	△ 119,656
純資産の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
基本金	11,708,244	11,663,026	45,218
第１号基本金	11,274,344	11,229,126	45,218
第３号基本金	217,900	217,900	0
第４号基本金	216,000	216,000	0
繰越収支差額	△ 3,538,008	△ 3,580,122	42,114
純資産の部合計	8,170,236	8,082,904	87,332
負債及び純資産の部合計	10,692,569	10,724,894	△ 32,325

事業活動収支計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

（単位：千円）

科目			予算	決算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,149,214	2,148,011	1,203
		手数料	43,063	43,773	△ 710
		寄付金	49,205	51,522	△ 2,317
		経常費等補助金	886,031	885,838	193
		付随事業収入	25,085	25,283	△ 198
		雑収入	145,320	143,440	1,880
		教育活動収入計	3,297,918	3,297,866	52
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		人件費	2,032,427	2,009,368	23,059
		教育研究経費	1,024,137	989,168	34,969
		管理経費	213,330	202,735	10,595
		徴収不能額等	0	△ 746	746
		教育活動支出計	3,269,894	3,200,525	69,369
教育活動収支差額			28,024	97,342	△ 69,318
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		受取利息・配当金	1,252	1,969	△ 717
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	1,252	1,969	△ 717
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		借入金等利息	14,203	14,186	17
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	14,203	14,186	17
教育活動外収支差額			△ 12,951	△ 12,217	△ 734
経常収支差額			15,073	85,125	△ 70,052
特別収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	3,489	3,815	△ 326
		特別収入計	3,489	3,815	△ 326
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		資産処分差額	1,610	1,607	3
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	1,610	1,607	3
特別収支差額			1,879	2,208	△ 329
〔予備費〕			30,000	0	30,000
基本金組入前当年度収支差額			△ 13,048	87,333	△ 100,381
基本金組入額			△ 117,395	△ 105,613	△ 11,782
当年度収支差額			△ 130,443	△ 18,280	△ 112,163
前年度繰越収支差額			△ 3,580,122	△ 3,580,122	0
基本金取崩額			48,382	60,395	△ 12,013
次年度繰越収支差額			△ 3,662,183	△ 3,538,007	△ 124,175

（参考）

事業活動収入計	3,302,659	3,303,651	△ 992
事業活動支出計	3,315,707	3,216,319	99,388

2018（平成30）年度　事業計画

【重点目標】

（1）「質の向上」強化へ～中期経営計画の着実な推進

2018年度は、終わりない坂道を下り始めるように、18歳人口の著しい減少期に入る『2018年問題』に直面する。あらゆる取組みは「懸命な努力」を重ねた末で現状維持、「通常・例年並み」の姿勢に止まれば、後退引いては退場が必至である。学園の命運を左右する大学は「質の向上」、95年の歴史を持つ高校は「信頼され選ばれる学校」を目指す。さらに大学の「学生の確保」では、留学生や幅広い年齢層も学園に迎え入れる変革に取り組む。「『真面目』の教育、21世紀のNAGOYAを創る」のスローガンのもと、中期経営計画推進の施策を柱に取り組む。

（2）「生き残る」ための事業推進と戦略的経費確保へ支出抑制と財源の見直し

学園全体を視野に置きながら、先ず大学で進めてきた２年越しのブランディング事業は、2018年度、外部発信をスタートさせる。ブランドコンセプト「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」は、愛知東邦大学の人づくりの姿勢と、学生一人ひとりが自らを育む目標として掲げたものである。本学の学生と教職員が世間の序列意識から脱却し、誇りを持って唯一無二の個性を磨けるよう、新たな教育活動と共に後押しする。

また高校は大規模な補修に着手する。学園のICT環境の一新も必要となる。

こうした事業推進と学生募集に不可欠な知名度向上を図る広報経費等は、戦略的に捻出する必要がある。そのために、向こう10年間の「収支見通し」を策定し、財政的基盤を保ちつつ諸事業を実現するための展望を描いた。

大学の中途退学者低減は、収入減を食い止めるうえで最重要の課題である。学園人件費の一定比率化を図る一方、大学における教育研究および管理に関わる事業は、廃止も含めて抜本的に見直し、原則として2017年度比10%削減する。大規模な施設・設備の更新や補修のための減価償却引当特定預金は、10年間の収支見通しの中で柔軟に運用する。

（3）「新たな100年」を見据えた新体制と、既存業務の抜本的な見直し

2023年の学園創立100周年は、「新たな100年」に向かうスタートの年と位置付け、推進部門「新たな100年事務局」を設けると共に、事務局体制を一新する。「新たな100年事務局」は卒業生、学園に関係する保護者、団体、企業も含めた委員会のもと、記念の事業と行事はもちろん、総合型地域スポーツクラブなど学園の新たな基盤作りを進める。

一方、生徒と学生へのサービスを一層向上させるため、既存業務の外注化を含む抜本的な見直しを図る。

【東邦学園・法人】

今年度は、学校法人の経営責任を担う理事や大学運営の中心となる学部長が交代し、事務組織を大きく改編するなど人事異動により新体制でのスタートとなる。特に、創立100周年を節目として将来に向けた学園づくりを創造するために、法人事務局に「新たな100年事務局」を創設し、策定した中期経営計画を着実に遂行する。

文部科学省は平成30年度予算案の中で、「一億総活躍社会」に向けた教育再生の柱として三つのポイントを掲げた。新学習指導要領の円滑な実施を求めた『社会を生き抜く力の養成』、工業社会「Society 3.0」、情報社会「Society 4.0」に続く新たな社会である「Society 5.0」を目指すための『未来への飛躍を実現する人材の養成』、給付型奨学金を含む大学等奨学金事業の着実な実施などを念頭に置いた『学びのセーフティネットの構築』である。これら行政の政策動向を踏まえながら、大学ならびに高等学校が特色ある教育・研究活動を展開できるよう、各事業計画の実施に取り組む。

そのために、2018年度予算の編成に際して、学園全体の向こう10年間の大まかな「収支見通し」を作成した。法人、大学、高校が諸事業を円滑に進めうるための諸条件と財政的裏付けを示すことによって、学齢人口の減少期において、相当な努力を必要とはするが、施策を着実に実現すれば、悲観視することなく、学園を安定的に持続させられる道筋を示したと考えている。

【愛知東邦大学】

18歳人口のさらなる減少期を迎えて、文部科学省は2018年度から、経営が悪化し、教育の質も低下している私大への補助金を大幅に減額する仕組みを導入する。減額要件として、従来の「定員割れ」に加えて「５年程度の連続赤字」「教育の質が低評価」も対象とし、すべて該当する場合はさらに削減する。淘汰される大学は、補助金頼みで延命させないという国の姿勢がある。一方で、赤字が続いたとしても、「教育の質が高い」と評価される大学には補助金を減額しない方向も打ち出している。

本学は予期された現実と直面して、２年越しで進めてきたブランディング戦略を通じて、学生募集競争に対処し、教育の質向上と同時に取り組む。外部環境の把握や自らの強み・弱みを踏まえ、2017年度に決定したブランドコンセプトの下で計画された各事業（入試改革「自己プロデュース入試」、東邦STEPの全学化、キャリア支援）に取り組む。また、中期事業計画に定められた中核施策に加え、学科や事務局の課題を年間計画に沿って着実に実行する。

本学にとって最大の懸案は、中途退学者対策である。一部の学部で減少傾向にあるものの全体としては高止まりしている。退学に向かう学生の多くは、入学時までの家庭や学びの環境におけるハンディが背景にある。そのため、学修に対する関心や理解度など大学教育への満足度が低い。そうした学生ではあるが、諸方策を総動員して課題改善を図る。

文部科学省は大学支援の新たな指標として、社会の固定観念である偏差値評価から脱して、学生一人ひとり、様々な力をいかに伸ばしたかを問う仕組みを、近々に取り入れたいとしている。大学が掲げる「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」は、まさにこの方向を先取りしたと言えよう。自信を持って、このビジョンに基づく教育に取り組む。

第68回芸術選奨（美術部門）文部科学大臣賞の東邦高校卒業生
西野達さんを迎え受賞記念講演とシンポジウムを開催
9月15日（土） 18時30分から栄のナディアパークで

東邦高校の第29回卒業生（1978年卒）で、現代美術家として国際的に活躍している西野達氏が、平成29年度「第68回芸術選奨（美術部門）文部科学大臣賞」を受賞されました。

東邦学園では西野氏の栄誉を讃えるとともに、多くの方々に現代アートの魅力に少しでも触れていただける機会を提供したいと考え、西野氏の講演とともに「アート・建築から観た未来の街づくり」をテーマに、9月15日にシンポジウムを開催することになりました。

東邦高校、愛知東邦大学の在校生や卒業生、教職員を始め、東邦学園の多くの関係者の皆様方のご参加をお待ちしております。

シンポジウムの詳細および申込みは東邦学園ホームページでご案内します。

ＵＲＬ　https://www.toho-gakuen.jp

西野達氏芸術選奨受賞記念講演会及び
シンポジウム準備委員会

西野達氏 芸術選奨受賞記念講演及びシンポジウム
「アート・建築から観た未来の街づくり」

記

開催日時　2018年9月15日（土）　18時45分～（受付18時30分～）
会　　場　青少年文化センター（アートピア）
名古屋市中区栄3丁目18番1号
ナディアパーク内　デザインセンタービル11階
総合司会　山中　章子さん〈フジテレビアナウンサー、東邦高校ＯＧ〉
記念講演　西野　達氏
シンポジウム「アート・建築から観た未来の街づくり」
パネラー　**西野　達**氏
鵜飼　哲矢氏〈建築家、九州大学大学院准教授、東邦学園評議員〉
河村　たかし氏（予定）〈名古屋市長〉
モデレーター
牧ゆかり氏〈美術作家、東邦高校ＯＧ〉

東邦高校での防災・減災教育

東邦高校　防災委員会

今年度も4月9日（月）6限目に避難訓練を実施しました。防災教育放送を全校生徒に向け行い、南海トラフからの3連動地震の発生が予想されることや、1995年の阪神淡路大震災のこと、2011年の東日本大震災での生存率が99.8%だったという「釜石の奇跡」などを例に挙げ「災害は避けることはできないが、減災はできる」と伝えました。そして、名東区地域住民は防災意識を高く持っていることと、いざという時はお互い助け合って避難することの意義なども盛り込みました。

この放送後、全校生徒1739人は、家庭科室で地震に伴う火災が発生したという設定で教室からグラウンドに出て整列しました。避難に要した時間は12分30秒でし、比較的スムースで静かな避難訓練となりました。

また本校には愛知県内はもとより、県外からも通学する生徒が多数おります。授業時間内に被災した場合、交通機関の状況によっては「東海豪雨」や「東日本大震災」時のように、多くの帰宅困難者が発生することが予想されます。そのため、校舎内には全校生徒分の防災用品を収納し備えております。これは、いざという時の水分と一時しのぎですが飢えを緩和するための備品です。本校の防災体制は「備えあれば憂いなし」と言い切るまでには至りませんが生徒の安全、地域の防災に資するべく、今後とも訓練、防災教育を継続・発展させて参りたいと思います。

【東邦高等学校】

国は各大学の入学者選抜において、大学教育を受けるために必要な「学力の3要素」（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を、多面的・総合的に評価するものへと改善を進めている。特に2021年度からの大学入学共通テストや個別大学における入学者選抜において、教科・科目に係るテストの出題科目の見直し・充実などが進められている。更に、調査書や提出書類等の在り方の見直しもされ、高等学校段階における多面的な評価への改善が求められている。2018年度はこれらの対応が必要な生徒が初めて入学してくる年度である。これらの改革に対応できるよう教育活動全般にわたる改善への取り組みを進めていく。

近年の中学生の高校受験への傾向は「安全志向型」で、大学の附属校や上位難関大学への合格実績の高い高校の募集は人気を集めている。また他私学では、他校との差別化を図るために、理系に特化した専門コースや、グローバル化に基づいた英語コース・国際コースのような専門コースの新設も行っている。今後中学卒業生数が減少する時代に向けて、学校規模と学校体制を整備し、「生徒が望む進路に進むことが出来る学校」として、「信頼され選ばれる学校」を目指して努力していく。

2018年度　予算の概要

2018年度予算は、教育活動を今後も安定的に運営していくため、基盤を整える諸事業へ投資する、との方針に基づいて編成した。大学部門は、2017年度から開始したブランディング事業の下で展開する教育活動と学生募集を、特色ある活動として外部発信する初年度となる。認知度を高めるとともに、大学が新たな姿で捉え直される重要な契機とする取組みである。

具体的には、ユニバーシティ・ブランドの価値やコンセプトを可視化し、新たなシンボルマーク・ロゴ・コンセプトフレーズなどによるVI(ビジュアル・アイデンティティ)に合わせ、「じぶんブランディング」「自己プロデュース入試」「東邦STEPの全学化」「キャリア支援」等の事業を印象深く伝えることに予算を配分する。

施設設備のメンテナンスは、高校では校舎・設備が築11年を超えており、2017年度に行った実地点検の結果を基に3年計画で進める。大学においても、2013年度から3年間実施した耐震改修工事の際に見送った箇所と合わせてメンテナンス工事を実施する。

また、2013年度当時、情報システムの基盤整備として学園全体を範囲として統合することを目的に教育用情報システムをリプレイスしたが、2018年度には5年間の減価償却が終わり、9月にはサポート期限を迎える。よって、学生・生徒用（クライアント）PC 、サーバー集約（基幹サーバ）、ファイアウォール（セキュリティ対策）、認証基盤、事務職員用PC設定費および高校共用PCを一斉に整備する。

以上を重点事業として推進するための財源を確保するよう、現在作成中である「第4次中期財政計画」との整合を図りながら、2026年度までの向こう10年間の収支見通しを踏まえた予算編成とする。

学園の人事構成

【2018年7月1日現在】

本年度の学園の人事構成は下記の通りです。

◆理事・監事・評議員

理事長	榊	直樹
常務理事	長沼	均俊
理事	佐々木	泰裕、中山　孝男
	山田	博子、高山　仁惣
	加藤	明彦、木岡　一明
	志村	進
監事	川竹	敬三、鈴木　基仁
評議員	中山	孝男、舩木　恵一
	今津孝次郎、	貫名　正樹
	山田	博子、藤本　紀子
	水谷	光博、齊藤　卓哉
	戸谷	正行、佐長谷和恵
	高山	仁惣、大河　哲男
	平野	孝司、池田　憲幸
	遠山	眞人、下出　啓介
	加藤	雄次、大矢　郁夫
	鵜飼	哲矢、堀崎　亘
	元松	茂

◆法人事務局

法人事務局長	細江	保司
『新たな百年』事務局		
事務長	齋藤	周一
課長	二宮加代子	
スポーツ振興センター準備室		
課長	二宮加代子	
課長補佐	藤川	久孝
広報企画課長	柴田千登勢	
広報企画課長補佐	松井	慶太
〃	池田	暁生
以下大学同役職兼ねる		
総務課長	貫名	正樹
経理課長	袴田	克彦

◆大学

学長	榊	直樹
副学長	若林	努
学長補佐	長沼	均俊
〃	上條	憲二
〃	中山	孝男
〃	葛原	憲治
経営学部長	舩木	恵一
経営学部長補佐	深谷	和広
地域ビジネス学科長	舩木	恵一
国際ビジネス学科長	田村	豊
人間健康学部長	丸岡	利則
人間健康学部長補佐	葛原	憲治
教育学部長	後藤	永子
教育学部長補佐	堀	篤実
学術情報センター長	高木	靖彦
地域連携センター長	舩木	恵一
教職支援センター長	今津孝次郎	
地域創造研究所長	山極	完治
教務委員長	竹越美奈子	
入試委員長	杉谷	正次
キャリア支援委員長	上條	憲二
学生委員長	葛原	憲治
総務委員長	深谷	和広

◆大学事務局

大学事務局長	細江	保司
事務長	長沼	英樹
事務次長	藤井	玲子
特任（総務・財務）事務次長	袴田	克彦
教務課長	新村	健
教育企画課長	藤井	玲子
学生・キャリア支援課長	阪口	将史
学術情報課長	富田	敦史
ＩＲ推進室課長	〃	
入試広報課長	三輪	哲也
入試広報課長補佐	松井	慶太

◆高等学校

校長	佐々木	泰裕
教頭	岡本	増吉
〃	藤本	紀子
特任教頭	渡邉	素幸
校務部長	今井	通昭
教務部長	山田	剛司
生活指導部長	野﨑久美子	
広報企画室長	平上	純一
進路指導主事	森田	美樹
国際交流室長	伊藤	保憲
メディアセンター長	齊藤	卓哉
保健指導主事	船水	昭宏
生徒会正顧問	古田	知子
学年主任第1学年	大上	雄示
学年主任第2学年	森下	康介
学年主任第3学年	宮田	久
学科主任美術科	小塚	康成
コース責任者文理特進	木村	剛
コース責任者人間健康	横井	由弦
教科主任　国語科	青山	大輔
〃　社会科	木村	剛
〃　数学科	加藤	禎大
〃　理科	保坂	秀和
〃　保健体育科	澤田	洋平
〃　芸術科	杉浦見奈子	
〃　英語科	岡本	洋美
〃　家庭科	田中	瑞穂
〃　情報科	小嶋	裕人

◆高校事務部

事務部長	堀田	時弘
事務副部長	池田	暁生
情報システム課長補佐	山田	智代

愛知東邦大学
AICHI TOHO UNIVERSITY

愛知東邦大学
AICHI TOHO UNIVERSITY

オンリーワンを、一人に、ひとつ。

経営学部 | 人間健康学部 | 教育学部

オープンキャンパス
8/8(水)・8/24(金)
8/25(土)・11/17(土)

- 9:00/受付開始　10:00/オープニング
- 開催場所/愛知東邦大学キャンパス内
- 対象/高校生・保護者
- 内容/総合説明会・模擬授業・キャンパスツアー
  東邦STEP説明会・学食体験・AOガイダンス
  AO入試対策講座など
- 地下鉄「一社」駅より無料送迎バスがあります

【お問い合わせ】
愛知東邦大学　入試広報課
TEL：052−782−1600

東邦高等学校
TOHO HIGH SCHOOL

普通科(文理特進・普通・人間健康)
美術科

美術科夏期講習会　7/28(土)、7/30(月)　9:00〜15:00　要インターネット事前申し込み

東邦キャンパスデイ　8/28(火)、8/29(水)　(授業体験)9:30〜11:00　要インターネット事前申し込み
(部活動見学)9:30〜11:30　要インターネット事前申し込み

文化祭(一般公開日)　9/22(土)　10:00〜14:00　入場制限あり

美術科卒業制作展　10/24(水)〜28(日)　9:30〜17:00

美術科説明会　10/27(土)　9:00〜10:00
要インターネット事前申し込み

中学生英語スピーチコンテスト
10/28(日)　9:00〜13:00　要申し込み

学校説明会　11/4(日)　9:30〜11:30
要インターネット事前申し込み

美術科体験授業
11/4(日)　9:00〜11:00
要インターネット事前申し込み

入試説明会　12/1(土)　9:30〜11:30
要インターネット事前申し込み

美術科卒業制作展は名古屋市博物館が会場となります。
その他のイベントは全て東邦高校が会場となります。

【お問い合わせ】　東邦高等学校　TEL：052−782−1171(代)